

# AIC-Japan Newsletter



発行人  
特定非営利活動法人 AIC-Japan  
〒655-0046 兵庫県神戸市垂水区舞子台8-20-1  
E-mail aicjapanstvincent@yahoo.co.jp

Vol.11  
November, 2015



スラムで生きる子どもたちと、発展する都市が対照的な現在のフィリピン

気候変動による地震や大洪水に見舞われ続けた 2015 年も、残すところあとわずかになりました。大震災の傷跡も癒えない内に、またもや洪水に見舞われた東北地方の方々には、どうお見舞いの言葉をお掛けしたらよいのか。又、ヨーロッパの危機と呼ぶべきアフリカやシリア方面からの難民の群れ。私たち日本人には想像をはるかに超える悲惨な事態が B B C のテレビ画面を連日埋め尽くしています。2015 年、残された日々を出来る限り平安に、と祈るばかりです。

ニュースレター創刊号はフィリピンのこどもたちの現状報告から始まりました。その後、みなさまの暖かいご支援のおかげで、教育里親はインド、ラオスと増え、タイの看護学生への支援や、ラオスの村に生活水を届ける井戸掘削など、小さい組織ではありますが、できることを続けてまいりました。この夏、最初のご報告から約 5 年ぶりにフィリピンへの訪問が実現しました。今回は、春から AIC-Japan のメンバーになった産婦人科医の長谷川禎子さんからのレポートをお届けいたします。

## フィリピン訪問

長谷川禎子

2015年7月14日（火）～18日（土）、フィリピンに行って参りました。今回の私のフィリピン訪問目的は大きく2つ。①フィリピン一般市民の方達に対する健康講話～骨粗鬆症について学びましょう～の実施。②AIC-Japan 支援先の状況確認です。

7/14 13:30 マニラ（ニノイ・アキノ）国際空港。この頃、日本は毎日 30℃ 越えの猛暑。に、対して、雨期のフィリピン。マニラの最高気温は、30℃ に届かず。日本より、涼しく感じました。写真は、車窓から見たフィリピンの街並み。空港からマニラ中心部に向かう道路を渋滞解消のため、新しく建設中とのことでした。とにかく、あちらもこちらでも工事中でした。





14:30 目的地（DC センター）に到着です。センター内は、広く、緑も多く、外の喧騒が嘘のようでした。写真（左）の支柱や棚は、日本人支援者の方からの寄付だそうです。子供達が、植物を育て、観察することを学んだそうです。男性は、このエリアの世話係とのことでした。事務所にクーラーはありません。マリア様が、出迎えてくださいました。フィリピンの方達は、「おしゃべり」と「おやつ」が、大好きです。冷たいココナッツジュースをいただきました。

紫色のシャツを着ている方（写真・右下）が、ソーシャルワーカーのジーナ・タンさんです。2005年から DC センターで働いているそうです。月曜から金曜は、事務所で働き、土曜は子供達の社会活動への対応、日曜は、ミサと、毎日 DC センターに来ているとのことでした。他に、ソーシャルワーカーの資格を 4 名のシスターが持っているそうです。里親さんからの支援金は、子供が学校に通う為に必要なユニホームや靴、カバン、傘、交通費などに充てられているとのことでした。

フィリピンでは義務教育期間中の学費は無償だそうです。6 月から新学期。訪問した 7 月の時点では、支援を受けている子供達は、全員元気に通学しているとのことでした。ただ、フィリピン経済の成長に伴う物価の上昇や里親数の減少により、実質的な支援状況は、厳しくなっているとのことでした。支援を受ける子供達は、DC センターに近いコミュニティーの方が優先、3 人以上子供が居る家庭から 1 人だけが、対象。男女差は無い。平均収入が 1 月あたり、8000ペソ以下の家庭。学校での成績が 80% 以上であること、といった条件を設けているそうです。そうした状況下においても、毎日のように両親から申し入れがあるそうです。「日本からの継続支援を望む！」と強調されていました。そうした話を私達がしている横のデスクでは、里親さん達に送る為、子供達の写真を台紙に助手の女性が貼っていました。



7/1（土）9:30 再び、DC センターへ。 毎週土曜日には、DC センターの教室で、ソーシャルワーカーが支援チャイルドや家族と共に、社会的活動を行っているそうです。ゴスペル練習の時もあるそうです。この日は、月 1 回のチャイルドと母親を対象にした自己形成レクチャープログラムが、実施されていました。関連する聖書の箇所を皆で読んだ後、書いたり話し合いをしたりとワークショップを行うというやり方でした。





DCセンターから徒歩5分程度、支援地域(バラングイ)の1つを案内していただきました。直前の大雨で1階部分が浸水したそうで、訪問時は、まだ、片づけの最中でした。細く曲がりくねった道沿いに家が立ち並び、排水等の設備は、不十分でした。電線等も垂れ下がったままの場所もあり、災害対策は不十分であることを感じました。また、浸水後というものもあるかと思いますが、ハエが飛び交い、どぶ川の臭いがいたしました。しかし、10年前に比べると、この地域の環境は、非常に改善されてきており、今後の発展が期待されるとのことでした。

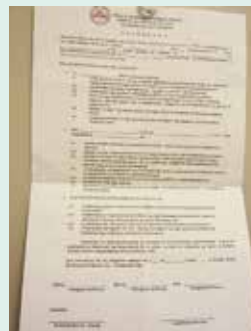
数件のご自宅を訪問させていただきました。キッチンと決して広くない居間のスペースに7~8人家族で生活という家庭が多いようでした。食事は野菜を中心に、栄養のバランスを考えながら十分食べることは出来ていると英語で説明してくださったお母さんもありました。皆さん、子供達が、学校に通えること、あるいは、卒業したことを子供達の写真と共に、誇らしげに話して下さいました。

写真の親子は、私達を案内して下さい、支援チャイルドとその母親です。1階は、雑貨店。2階部分を借りているとのことでした。奥がキッチン、手前がベッドルームです。彼女は、学校に行くのは楽しいとはにかみながら応えてくれました。

10:00頃、支援地域を出て、DCセンターの事務所に戻りました。約1時間のミーティングの後、私は帰宅の途、空港に向かいました。複数回目のフィリピン訪問でしたが、訪れる度に、特に都市部は急速な勢いで発展していると感じます。と、同時に、貧困地域(スラム)間での格差の拡大も改めて感じました。AIC-Japanの今後のフィリピンに対する支援のあり方について、引き続き皆様と一緒に考えていければと思いました。



ジーナさん達が、作ってくださった健康講話のプログラムです。16:00頃からホールにて、一般市民の方に骨粗鬆症について、約45分の話を行いました。私が話した時間と同じくらい質問も沢山ありました。皆さん、熱心に聴いて下さり、大変嬉しく思いました。



支援を受けるにあたっての誓約書で、年1回の更新だそうです。タガログ語で書かれており、私には詳細不明でしたが、きちんと学校の授業やDCセンターでの活動に参加すること、椅子の準備や片づけをすること、などが記載されているそうです。

## AIC-Japan活動報告



## ラオス支援 ～ 子どもたちへの支援 ～

新しい年が明けただばかりの数年前のある日、ラジオのニュースから聞こえてきたNHKアナウンサーの言葉は、「なんとこの貧乏国ラオスに証券取引所がオープンしたのです」でした。AIC-Japanのラオス支援もこの数年間に過ぎません。ラオスの首都、ヴィエンチャン周辺の数村に井戸を提供し、飲み水を確保しました。また、25名の子どもたちに学用品などの教育支援と栄養改善支援を始めましたが、今年度は更にその子供の数を50人に増やし、教育と栄養の支援を続けています。最初の25名に関してはニュースレター Vol.9で紹介しました、新たな25名に関しては、写真など入手次第お知らせします。尚、ラオスはカンボジアに次いでアジアの中でも世界最貧国と言われているので、今後もっと支援を増やしていきたい国です。そこで教育を含めたラオスの子どもたちの社会的現状をお知らせします。尚、カンボジアにもAICが誕生しました。うれしい限りです。

ヴィエンチャンの二つの村に存在する25の学校では、AIC-JapanとAIC-タイの支援を受けた教育（日本）および医療（タイ）のプログラムが行われています。学校に通うための交通費やカバンや靴などの必需品をはじめ、テキスト、筆記用具やノート類など全て与えられています。

子どもを学校に行かせるにあたり、親に対する教育も必要です。教育の大切さを認識してもらうため、親のための会合が行われ、子どもの権利と人間としての尊厳の自覚を親に促します。それにより、子どもの自尊心が高められます。

教育をとおし、一人一人が神に愛されていることを自覚すれば、社会問題を知って、人身売買の犠牲になることを未然に防げます。ラオスでは12歳以上の少女は、近隣のタイなどの国々で水商売などで働くよう親達に強要されたり、売春をさせられたりしています。全て貧困のなせるわざです。AIC-Internationalの掲げるモットー、貧困撲滅を目指して戦いましょう。

学校に通うための健康な身体づくりも重要で、2013年には110人の育ち盛りの子どもたちにミルクやパン、お菓子などを配布しました。（斎藤公江）



## ヴィンセンシアン・ファミリーデー

2015年9月19日、青空の下、ヴィンセンシアン・ファミリー・デイのメイン・イベントとして、古巣神父様の講演が行われました。タイトルは「またオナジを手渡すために一信徒発見・日本の教会の原体験」でした。今、信者数が減少しているというカトリック教会が置かれている現状を踏まえ、150年前の信徒発見に戻り、受け継いできたものを手渡すよう努めましょう、ということでした。

1865年3月17日の大浦天主堂で、司祭、プティ・シャンの下へ浦上潜伏キリシタンが現れ、「ワレノムネ、ナレノムネトオナジ」と言って信仰告白をしたことを信徒発見として、日本のキリスト教の歴史を話されました。当時のカトリック要理「ドチリナ・キリシタン」を通して、教えが家庭で確りと教えられたことにより、



日本に伝えられたキリスト教が、いかに正当で、普遍的なものであったかを示し、教育の重要性を指摘されました。日本のキリシタンはこの「オナジ」を手渡され、他国に類をみない勝れたキリスト教教育が行われていたので、「ワレノムネ、ナレノムネトオナジ」と言うことが出来た、

ということです、又、当時の日本の識字率は他国と比べ、きわめて高かったということです。司祭は日本のすばらしさを強く表明して下さいました。そして最後に、教会がさらなる前進を果たすため、この「オナジ」を後の人々に手渡すことが私たちに課せられた使命であると、力強くおっしゃいました。

五島の地に手渡された純粋なキリスト教を、司祭は海を越え、この同じく海辺の町、神戸へと携えて来て下さったのです。素朴な語り口でとつとつと五島弁を交えて語る司祭の言葉に涙する者、笑う者、会場は熱気に溢れていました。神父様、有難うございました。五島の風が、愛徳姉妹会の瀟洒な、坂の上の建物全体に流れました。建物の最上階に立って海を見渡せば、シスター達には五島列島が見えるに違いありません。神父様はそれ程「五島」を身近に感じさせて下さいました。2時間たのしかったです。

尚、講演の詳細は現在活字に変換中です。目で読みたい方は愛徳姉妹会にお問い合わせください。但し年末ですから、当分は掛るでしょう。（斎藤公江）



## 🎁 今年もチャリティーバザーに参加しました！

AIC-Japan が、アジア諸国への教育支援、水や食べ物の支援、災害支援がおこなえるのは、ほとんどが会員の方々の会費のおかげで成り立っております。その輪を少しずつ広げていくにあたり、AIC-Japan として教会や地域活動のバザーに、参加させていただいております。

認知、収益につながっていくことを願いつつ、まだまだ微力ではありますが楽しく活動が続けて行きたい思っております。今後とも皆様のご協力ご参加を賜りますようよろしくお願い申し上げます。（小川香織）

### 今年、参加させていただいたバザー

- 2月15日 カフェ森のベンチバザー (AIC 主催)
- 5月17日 カトリック明石教会バザー
- 10月25日 カトリック垂水教会バザー
- 11月3日 聖マリアの園幼稚園コスモス祭
- 11月8日 桃山台ふれまち ふれあいの会

カトリック箕面教会では3か月に一度、AIC-Japan で東北支援のためのミニバザーを開催してくださっています。  
ありがとうございます！



## AIC-Japan 神戸チャリティーコンサートの開催日が決まりました！

**2018年5月7日(土) 午後～**  
会場：新長田ピフレホール

今回は、遊方さんの落語をお届けする予定です。

出演  
予定

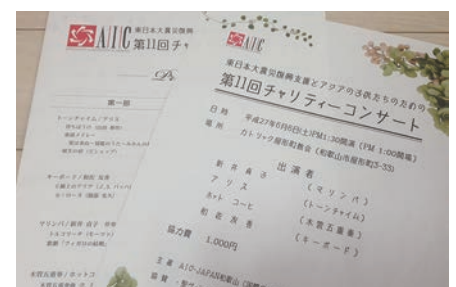
- ・落語 月亭遊方さん
- ・和太鼓 ホッと太鼓 のみなさん
- ・コーラス CHOR POP のみなさん

詳細は、4月のニュースレターでお知らせいたします。

## 🎁 AIC-JAPAN 和歌山チャリティーコンサート

11回目を迎えた和歌山のチャリティコンサートは、和やかな楽しい雰囲気の中に今年も大盛況でした。出演して下さる方々の暖かいお心も伝わってきて、年に一度、この日に会える楽しみが定着してきました。

来年も6月の第一土曜日に開催いたします。どうぞよろしくお願いいたします。  
(播本幸子)



# ご支援のおねがい



## 水とたべもの基金 支援を必要としているアジアの人々へ

- 賛助会員 5,000円/年 AIC-Japanの活動に賛同してくださる方
- 個人会員 3,000円/年 個人で支援してくださる方
- 家族会員 5,000円/年 ご家族で支援してくださる方
- 特別会員 30,000円/年 企業を対象にしています



## 教育里親基金 里親さん募集中

現在は、インド、ラオス、フィリピンの3カ国の子ども達の支援をおこなっています。フィリピンはマニラ周辺の経済状況が発展してきたこともあり、今後はインドやラオスなどのより貧しい国への教育支援に目を向けていきたいと思っています。

### インド

- 小学生 …………… 6,000円/年 (通信費1,000円含む) 7年継続
- ハイ・スクール生 …………… 11,000円/年 (通信費1,000円含む) 5年継続

### フィリピン

- 小学生 …………… 12,000円/年 (通信費2,000円含む) 6年継続
- ハイ・スクール生 …………… 12,000円/年 (通信費なし) 6年継続

### ラオス

- 25人の子ども達への必要経費 30,000円/年 グループなどでご支援いただけるとありがたいです。

### 振込先

郵便振替口座番号

00950-4-158176

加入者名

特定非営利活動法人 AIC-Japan

## AIC-Japan 大阪・設立準備中

来年度よりAIC-Japan大阪を立ち上げることとなり、現在準備中です。和歌山を含め日本に3つのAICが存在することで、AIC-Internationalの正会員としても認められることとなります。3グループそれぞれが共に連携し、より皆様にご信頼いただけるグループになるよう活動を続けてまいります。今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

### AICとは？



国際愛徳協議会 (International Association of Charities) は400年の歴史を持ち、世界で最も古い婦人ヴォランティア団体です。本部はベルギーのブリュッセルで、世界52カ国に支部をもち、20万人もの会員がいます。戦争や疫病に苦しんでいた17世紀のパリで若き司祭、ムッシュー・ヴァンサンとして親しまれていた聖ヴィンセンシオ・ア・パウロ (1581-1660) は愛徳姉妹会の創立者、聖ルイズ・ド・マリアック (1591-1660) の助けを受け、行き倒れの病人や孤児たちを救いました。また時の王、ルイ13世、女王アンヌ・ドートリッシュ、宰相リシュリユーなど、サン・ヴァンサンは政治には一切関与せず、名誉ある役職から遠ざかっていましたが、政財界の信頼と尊敬を一身に受けていました。そこで、裕福な貴婦人たちに食事を作らせ、貧しい病人のもとに持って行って食べさせたのがこの婦人会の始まりです。

### NPO AIC-Japan

事務局

〒655-0046 兵庫県神戸市垂水区舞子台 8-20-1 聖ヴィンセンシオ・ア・パウロの愛徳姉妹会内  
Tel. 080-6134-7684 E-mail aicjapanstvincent@yahoo.co.jp <http://aic-japan.org>

水と食べもの基金・インド、フィリピン教育基金へのお振込

▶ 郵便振替口座番号 00950-4-158176 加入者名 特定非営利活動法人 AIC-Japan

### AIC-JAPAN 和歌山

〒641-0044 和歌山市今福 3-5-21

和歌山の活動に関するご支援・お問い合わせは、073-451-6460 まで

文責 齋藤江江 (AIC-Japan)